

目指す学校像	「あい」あふれる教育で～あいさつ 笑顔 チャレンジ 岩槻小学校～ 【自信・自律・自立】 自己の能力(よさ)を最大限発揮できるように、「チャレンジ」の気運を醸成する。笑顔あふれ、一人ひとりが輝く学校
--------	---

重点目標	1 ICTを基盤とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」を連動させた授業改善・推進 2 一人ひとりの多様な幸せ(Well-Being)を大切にする、安心・安全システムの構築 3 コミュニティ・スクールとしての方策の共有と行動(家庭・地域・関係諸機関との連携) 4 同僚性の向上による働き方改革の推進と質の高い教職員の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○昨年度の全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査では、国語、算数ともに、前年度より若干向上したものの、全国・市平均と比べると良好とはいえない状況にある。 ○全国学力・学習状況調査で、「国語の勉強が好きだ」「算数の勉強が好きだ」のアンケート項目では、肯定的な回答をした児童の割合は、国語、算数共に市平均と同程度であった。 ○自分の考えを根拠をもって説明したり、自信をもって発表したりする児童が増えた。 (課題) ○既習内容を、1時間の学びに確実につなげ、「自分の考えをしっかりとつこと」「自分の考えを表現すること」を中心に授業を展開し、学力を向上させる。 ○普段の授業の中で、自分の考えを筋道立てて表現し、達成感・充実感を味わえるようにする。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の連動による授業改善及び学力向上 ・ICTを基盤する授業実践の構築	①「学びの指標」を踏まえた、児童が主体の授業づくりに取り組む。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の連動による「R6 岩槻小 スタンダード」を積極的に実践する。 ②全国学力・学習状況調査について、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自己採点を行い、自らの学習状況を把握できるようにする。	①「学びの指標 主体的な学び」が3.4以上となったか。学校評価教職員アンケートで、学力定着に関する項目の肯定的な回答の割合が、90%以上となったか。 ②児童が自己採点の結果や自らの学習状況を基に課題をつかみ、目標を立て(100%)、達成のために努力する。結果として、市学習状況調査の達成率が昨年度より向上したか。	①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の連動による「R6 岩槻小 スタンダード」を積極的に実践した。「学びの指標 主体的な学び」は3.42PTであった。学校評価教職員アンケート「学力定着」肯定的回答91%。 ②6年生児童が各自、自己採点及び振り返りを確実に行った(100%)。各自目標を設定し努力を続けた。日頃のテストなどから学力は確実に向上している。市学習状況調査の達成率は国語、算数、社会で1～5pt上昇。	A	①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の連動による授業改善を進めつつ、「カリキュラムマネジメントの充実」を図る。結果として、全国学調及び市学調の正答率を向上させる。 ②全国学力・学習状況調査について、自己採点の結果をもとに、振り返り、課題・目標を立て、実践する。市学習状況調査の正答率の向上につなげる。	・学力が向上してきているのはなにより。 ・様々な取組が、学習へのきっかけになっていると思う。一生懸命取り組んでくれてのおかげで成果が上がった。 ・一人一台のタブレットなどは、自分が子どもの頃からは想像できないことで、夢のような世界。でも、将来のことを考えると、どんどん使っていくのはいけないのだろう。 ・8割以上達成できているので、「A」でいいのではないかと。
2	(現状) ○誰もが居心地のよい(Well-Being)という視点で、教育環境を改善した(大イチョウ全校落ち葉拾いキャンペーン、築山での遊び)。 ○学校や教室に行きづらい児童のための学習スペース(なかよしルーム)の整備が完了した。 ○昨年度の学校評価児童アンケートで、「学校に行くのが楽しい」の項目に肯定的回答をした児童は86%であった(3年間平均87%)。 ○安全点検は毎月確実に実施され、緊急的な不具合に対する修繕はすぐ行っている。 (課題) ○専門職からの報連相を確実に行う。専門職からのアドバイスを、適切なタイミングで、組織的に生かしていきたい。 ○安心して学べる環境づくりという視点での工夫改善を積極的に行う。	・誰もが安心して学ぶことができる、組織的なサポートの実現 ・一人ひとりの多様な幸せ(Well-Being)を実現する教育環境づくり	①一人ひとりをしっかり見つめる教育を展開する。緊急案件等は未然防止に重点を置く。発生時は管理職・生徒指導主任を中心に組織で迅速に対応する。 ②SC、SSWからその日のうちに確実に報告を受け、その後の対応等に生かす体制をつくる。 ③スクールダッシュボードを活用した個人面談を実施する。	①日頃、報連相が確実に行われたか。緊急案件発生時は、関係者をすぐに招集し、迅速かつ組織的に対応できたか。 ②勤務時間内、確実に報告が行われ、情報共有できたか。学校評価保護者アンケートの関連項目で肯定的な回答の割合が85%以上となったか。 ③スクールダッシュボードを活用した個人面談を実施できたか。	①いじめ案件、保護者からの緊急的な相談、重大事故等については、30分以内に管理職に報告があがった。すぐに関係職員を集め校内委員会を開催し対応に入った。組織的かつ迅速に対応できた。 ②SC、SSWから勤務日のうちに報告を受けた。保護者アンケート「丁寧・迅速な対応」肯定回答91%。「いじめのない学校」96%。 ③各児童のおはようメーター集計も活用して面談できた。	A	①事案が起こってからスムーズに解決に向かうことが多かった。「起こる前に気付けたのでは？」と思う案件もあったので、改めて教職員がアンテナを高くし、未然防止に努める。 ②生徒指導委員会、特別支援教育委員会でSC、SSWの意見を聞けるよう、日程調整をしていく。豊富な経験からの助言をもらい、その後の具体的な対策に厚みを増したい。	・いろいろな児童がいて大変だと思うが、よくやっていただけている。 ・先生方の経験から、原因と状況別に対応の仕方を表にしておくとうい(フローチャート)。 ・校内での情報が、速やかに校長先生まで伝わる体制は、子どもたち及び保護者に安心感を与えるものと感じる。 ・今後も子どもたちがいろいろなことにチャレンジできる教育環境の整備を続けてほしい。
3	(現状) ○岩槻中、太田小と合同の学校運営協議会では、目指す児童の姿について熟議を行った。「かしく生きろ」「伝統を愛する力」を身に付けた児童生徒を地域全体で育てていくことを共有した。連携の具体策についても熟議した。 (課題) ○学校運営協議会4年目ということで、さらに熟議を重ね、「身に付けさせたい力」の育成に向けた方策をしっかりと見極め、継続的かつ具体的な行動に移していく。 ○地域諸会議(防犯ボランティア会議等)で、課題を共有し、課題解決のために行動したい。	・コミュニティ・スクールが目指す児童の姿を共有するための教育活動の公開 ・登下校時を始め安全上の課題を早期に解決する体制強化	①ホームページや学校だよりで教育活動を公開し、児童の活動の様子を知ってもらおうと共に、学校運営協議会の取組についても、保護者と共有する。 ②運動会や授業公開等、地域の方に教育活動を公開し「地域と共に生きる学校」への関心を高める。	①1週間に1回以上ホームページを更新できたか。また、学校評価保護者アンケートで、「学校は情報を積極的に発信している」と回答する保護者の割合が85%以上となったか。 ②地域の方への教育活動公開を年2回以上実施できたか。	①給食献立紹介、便り、教育活動紹介等について、週1回以上ホームページを更新できた(100%)。学校評価保護者アンケート「ホームページ、学校だより等を通して積極的に情報を発信している」肯定回答91%。 ②学校行事等で年間2回実施した。通常授業の公開はできなかった。	B	①ホームページでの教育活動発信の頻度を上げる。教育活動については、週2回以上、給食紹介については毎日更新していく。 ②地域の方へ、学校行事だけでなく、通常の授業も公開したい。	・運動会や校内音楽会で子どもたちの姿を見ると、(子どもたちが頑張っていて、笑顔で)安心できる。
4	(現状) ○学校課題研究のステージを理論から実践研究に進め、一人ひとりが主体的に取り組んでいる。 ○教職員が互いを認め合える人間関係ができている。職員室の雰囲気は明るい。 (課題) ○教職員のキャリアステージやライフスタイルに応じて、より一層主体的かつ計画的に研修に取り組む。 ○心身をリフレッシュさせ、明るく元気に働く姿を児童に見せていきたい。	・「学び合い、高め合う」学校課題研究の実施と、やりがいを感じる職場環境の実現	①学校課題研修として、全員参加の授業研究会を年3回以上実施し、深い学びの実現に向けた授業改善について協議する。 ②時間のもち方を工夫し、時間外在校時間を前年より減らしながらも、キャリアステージに応じた研修に主体的に参加し、パフォーマンスを向上させる。 ③教職員事故防止、危機管理対応に関する研修を実施し、「自分事として」考え、対応力を向上させる。	①校内授業研究会を年6回以上実施すると共に、明確にした成果と課題を、授業改善に役立てることができたか。 ②学校評価教職員アンケート「指導力向上」に関する項目で、肯定的回答の割合が90%以上となったか。時間外在校時間が減少した教職員の割合が80%以上であったか。 ③教職員事故防止、危機管理対応に関する研修を年間4回以上実施できたか。教職員事故が0であったか。	①校内授業研究会6回実施。研究協議での成果を各自授業改善に生かすことができ、指導力向上の一助となった。 ②各教員が自主的に研修に取り組んでいる姿が見て取れた。学校評価教職員アンケート「意欲的に研究に取り組んだ」100%。Sノ一残業デーの実施、会議の削減等で、時間外在校時間が減少した教職員の割合が92%。 ③個人情報保護の徹底。教職員事故防止、食物アレルギー、不審者侵入、傷病者搬送等の研修を2学期までに5回実施。教職員事故0	A	①校内授業研究会等による指導力向上と児童の学力向上としっかり結びつけていることを、客観的な判断材料をもって示したい。 ②本校の働き方改革が研修意欲向上につながっていることは確認できたが「子どもと向き合える時間」「自分と向き合える時間」の確保につながっているかを検証する。 ③個人情報流出については繰り返し指導。教職員事故0を継続する。	・週に2回程体育館を借りているが、職員室内には、笑顔で話をする先生方の姿が見られない雰囲気だと感じる。 ・先生方が、自信をもって児童の指導にあたっていると感じる。

